

編集委員会便り

エネルギー・資源研究会の事務局は大阪市西区京町堀（きょうまちぼり）1丁目にあることは、皆様ご存じかと思います。京町堀1丁目は大阪のオフィス街の中心である“中之島”を少し南に下がった所で、現在ではもう埋め立てられた京町堀川の北側を、東西に延びる町です。このゆかしい堀川の名は、京都の伏見から移住してきた町人によって、江戸時代のはじめに開削されたことに由来します。かつてのこの堀川の、南側にあたるところには、テニスコートや、噴水のあるバラ園なども設けられた鞆（うつぼ）公園があります。それほど大きな公園ではありませんが、亭々とそびえるけやきの並木があります。毎年、秋にはここで野外彫刻展が開かれますが、黄葉したけやきの木漏れ日を受けて、彫刻像が佇んでいる様子は、まことにこころ静まる風景です。編集実行委員会の開催場所に依っては、そこへの行き帰りに、この京町堀付近を通ることになります。

さて、今月号の特集「人工知能（AI）とエネルギー・資源」は、AI応用技術のうち、産業界で広く実用化が進められているエキスパートシステムの、エネルギー・資源分野における応用に焦点をあてたものです。この特集案は筆者の前任者である市川委員の提案によるもので、昭和62年12月の編集実行委員会において、昭和64年1月号の特集にと内定されました。当初から、電力、ガス、鉄鋼関係におけるAI利用がテーマとして上がったため、未定委員、磯谷委員等の協力をいただきました。AI分野の現状に即して、審議の過程で表題を若干修正するなどしましたが、各委員の協力により、執筆者が特定されてゆきました。ただ、

特集の総論的な「AI技術の将来展望（エネルギー・資源分野を中心として）」の執筆者をなかなか特定できず苦慮しましたが、東工大の小林先生にお願いすることを提案し、昭和63年6月の編集実行委員会で了承されました。事務局から小林先生あての依頼に対して、快諾のご返事をいただき、特集の執筆者がすべて決定しました。人工知能（AI）という新しい分野の技術を扱うだけに執筆者決定まで神経を使います。これで特集担当者としてもホッとしました。ご協力いただいた執筆者、各委員の方々に深く感謝いたします。

10月定例の編集実行委員会は10月25日、市北部を一望できる大阪大学工業会館で開催され、出席者は13名でした。まず、上野事務長の諸報告事項からはじまり、林委員長の査読委員会報告、一般投稿の審議へと進みます。ついで、1月号の執筆承諾通知の報告があり、大部分の執筆者から返事を受けたとの報告。そのあと、3月号についての審議で、特集の詰めと、1頁ものの小文の執筆者が決定され、休む暇なく5月号の論説、展望・解説、特集テーマが審議、決定されました。委員長の軽やかな司会にもかかわらず、審議に通常より少し時間がかかりました。その後フリーディスカッションとなり、会の発展方向についての議論がなされました。次回の日程を決めて散会しましたが、次回はもう12月になります。秋の日の短さと共に時の流れの速さを感じたことでした。

吉 田 忠 弘

三菱電機(株)中央研究所エネルギー研究部主幹

